

日本職業リハビリテーション学会

第37回（近畿）大会

開催要綱 第2報（参加案内）

テーマ：「今一度、雇用・就業にこだわる」

会 期：2009年8月20日（木）～21日（金）

会 場：神戸学院大学ポートアイランドキャンパス B号館
神戸市中央区港島1-1-3

アクセス：JR三宮駅および神戸空港より神戸新交通ポートライナー「市民病院前」駅下車西へ徒歩約6分（新神戸駅からは市営地下鉄で三宮へお越し下さい。市民病院前駅までは新神戸からは約11分、三ノ宮から約9分

第37回大会は2009年8月20日（木）～21日（金）の日程で、神戸港と市街を見渡すポートアイランド西岸にある神戸学院大学ポートアイランドキャンパスで開催します。

障害のある人の権利に関する条約第27条「仕事と雇用」で「障害のある人にとって、開かれた、インクルーシブで、かつ、アクセシブルな労働市場及び労働環境」や「職場において障害のある人に対して合理的配慮の確保」などを示したように、また、我が国においても障害者自立支援法の象徴的事業である就労移行支援事業の誕生など、職業リハビリテーションは今、再び雇用・就業に焦点があたっています。このような潮流に立脚し、本大会では、「今一度、雇用・就業にこだわる」を基本テーマに、基調講演をNPO法人大阪精神障害者就労支援ネットワーク理事長でくすの木クリニック田川精二医師が行います。多くの精神障害のある方が仕事をしたい希望を持ちながらも訓練施設とつながっておらず、就職がすすまない現状の解決に向け、大阪の精神科診療所の精神科医有志が精神障害のある方の就労支援を行うNPO法人を設立し、2007年6月1日に就労移行支援事業所を開所したのです。この全国でも極めて希な実践を通して、職業リハビリテーションのあるべき姿をパネルディスカッションし参加者一同で活発な意見交換をしていきます。

さらに、すべての分科会には、企業の方にもスピーカーとして参加していただき、課題ごとに大会テーマを掘り下げていく構成になっています。このような雇用・就業という極めて実践的なテーマと学会というアカデミックな活動との融合こそが職業リハビリテーション固有の領域であり、今後の発展の基礎であるとの思いから大会準備を進めています。

最後に会員の皆様からの研究実践発表は48題（口頭32、ポスター13、自主ワークショップ3）の応募がありました。大会事務手続きが大幅に遅れている中で、沢山のご応募を頂き誠にありがとうございました。

第37回大会長 黒田 大治郎（神戸学院大学）

《開催スケジュール》

月 日	時 刻	内 容
8月20日 (木)	09:30~10:00	研修基礎講座受付
	10:00~12:00	研 修 基 礎 講 座
	12:00~13:00	大会受付 & 昼食
	13:00~13:10	開 会 式
	13:10~14:10	基 調 講 演 NPO大阪精神障害者雇用支援ネットワーク理事長 田川精二氏
	14:20~16:20	パネルディスカッション 基調講演を受け、雇用・就業をあらためて問う
	16:30~17:30	会 員 総 会
	18:00~20:00	懇 親 会
8月21日 (金)	09:00~09:30	受 付
	09:30~12:00	口頭発表 ポスター発表 A 10:00~11:00 B 11:00~12:00
	12:30~13:50	昼 食
	13:00~15:00	分 科 会 1. 企業ネットワーク 2. 発達障害のある人の雇用・就業支援 3. 教育機関と企業との連携 4. 自主ワークショップ
	15:15~16:00	分科会まとめの報告及び閉会式(大会発表奨励賞授与)

* 各プログラムの時刻は、研究発表申込状況等により多少変更となる場合があります。

《研修基礎講座のご案内》

大会初日、8月20日（木）の午前に学会研修委員会の主催で研修講座が開催されます。公開講座となっておりますので、学会員以外の方も受講することができます。当日参加も可能ですので、是非ご周知下さい。受講を希望される方はAもしくはBのどちらかを選んで申し込んで下さい。

講座A「事業所とのパートナーシップ～ニーズを聞き取り、支援に活かす～」岩佐 純 氏
(独立行政法人高齢・障害者雇用支援機構 東京障害者職業センター多摩支所 支所長)

講座B「高次脳機能障害の障害特性と支援」野々垣 睦美 氏
(クラブハウスすてっぷなな 所長)

《大会企画内容のご案内》

1. 基調講演

「精神障害のある方への総合的支援として雇用・就業にこだわる」(仮)

講師 NPO 法人大阪精神障害者就労支援ネットワーク (J S N) 理事長 田川 精二氏

精神障害のある方への就労支援においてキーマンである医師がまだまだ消極的な状況下で、J S Nの実践は本人にはリハビリテーション・リカヴァリーを、医療には「状態を悪くさせない医療から本人の人生を応援する医療」へ、福祉には「障害者としての安定への支援から一人の人間としての人生に目を向ける」支援へ転換していく牽引力になっています。ここに職業リハビリテーションが目指すべき地平があるのでという思いから、診療の合間をぬって講演していただきます。

2. パネルディスカッション

かつての職業リハの研修会では、障害特性理解とそれに応じた支援技法の習得が中心でありました。それが、ジョブコーチ研修にみられるように、企業との関係性を重視する実践的な内容に変化しています。しかし、実践的スキルを高めることを前面に押し出すため、ベースにならなければならない思想が抜け落ちていっているのではという危惧を感じることもあります。「何故、働くのか、障害のある人が企業で働くことを支援するのか」このことを明確にもった支援者の主体性をどう育成するのかが問われていると言ってもいいでしょう。基調講演を受け「雇用・就業」をあらためて議論します。

司会進行 黒田大治郎氏 (大会長)・古川直樹氏 (事務局長)

パネリスト 基調講演者：田川 精二 氏 (大阪精神障害者雇用支援ネットワーク理事長)

パネリスト 雇 用 主：矢野 孝 氏 (矢野紙器株式会社代表取締役社長)

パネリスト 支 援 者：高井 敏子 氏 (加古川障害者就業・生活支援センター所長)

パネリスト 学 会 理 事：相澤 欽一 氏 (障害者総合職業センター)

3. 分科会

①「企業ネットワーク」

職業リハビリテーションの主要なファクターの一つに企業があります。かつて支援者たちは、目に見えない雇用可能ラインを設定してそれをクリアした人を企業に送り込み、それで役割を終え、受け継いだ企業の永いご苦勞が始まるという連携とはほど遠い関係性がありました。このような課題を克服し障害者雇用の促進及び雇用継続を図るため、企業が主体となって、相互援助ネットワークを構築している例もみられます。このような実践の中から、企業と支援者の連携目標と課題を学び合います。

コーディネーター：古川直樹氏（学会理事 兵庫県立総合リハビリテーションセンター能力開発施設長）
パネリスト：江口 敬一 氏（YKK六甲株式会社代表取締役社長）
パネリスト：峯村信太郎 氏（エルアイ武田株式会社代表取締役社長）
パネリスト：奥野 誠 氏（株式会社 JR 西日本あいウィル取締役統括部長）

②「発達障害のある方の雇用・就業支援」

企業の社会的責任に対する意識の高まりや就業支援における法整備が進み、企業での障害者雇用の実践は着実に進んでいます。しかし、一方で発達障害のある方については、障害者雇用制度の対象とされない場合も多く、就業支援の実践も手探りの状況ではないでしょうか。そうした中、現に発達障害のある方を雇用している企業の実践をもとに、当事者や支援者の意見を交えながら、発達障害のある方の支援について学び合います。

コーディネーター：柴田珠里氏（学会理事 横浜市発達障害者支援センター発達障害者支援マネージャー）
パネリスト：和田 康宏 氏（ひょうご発達障害者支援センター長）
パネリスト：斉藤 吉一 氏（日本パーソナルセンター株式会社ビジネスサポート事業部マネージャー）
パネリスト：当事者
パネリスト：兵庫労働局職業安定部職業対策課

③「教育機関と企業との連携」

障害者自立支援法の議論の中で学校卒業時に可能な限り就職をという厚生労働省の見解が示されていました。各教育委員会も特別支援学校生との就職を促進するために後期中等教育課程の再編を進めています。また、労働と教育の連携を強化する改正連携通達がだされるなど、学校だけに止まらないさまざまな動きが活発に行われています。しかし、企業側と特別支援学校関係者のニーズや想いがまだまだ一致しているとは言えない状況もあります。進路指導担当者と教育委員会、企業にお集まりいただき生徒への就労支援と企業側のニーズを一致させる展望を学び合います。

コーディネーター：松為信雄氏（学会代表理事 神奈川保健福祉大学教授）
パネリスト：三洋商事株式会社（東大阪市）
パネリスト：京都市立白川総合支援学校
パネリスト：出口 哲史 氏（大阪府立たまがわ高等支援学校）
パネリスト：塚本 久義 氏（兵庫県教育委員会事務局特別支援教育課）

④ 自主ワークショップ

a 「東京都立足立特別支援学校ビジネスコースの教育課程と実践のあり方についての一考察」

東京都立足立特別支援学校普通科職業コース（以下ビジネスコース）の3年間の教育実践を中間報告することで、創造的教育実践と検証方法を探るとしたい。3年間のビジネスコースの教育課程と実践のあり方について会場に参加している方々の意見を集約することで、教育実践を考察し、次の創造的実践を導き出したい。

司会 深井 敏行 氏（東京都立足立特別支援学校）
話題提供者 朝日 雅也 氏（埼玉県立大学）
岡田 朗 氏（東京都立足立特別支援学校）
松本 守弘 氏（東京都立足立特別支援学校）

b 「一般就労をリカバリーにつなげるための工夫～「働く意義」の原点に戻って～」

本発表では、働いているご本人よりその背景にある思いを発表いただき、「働く意義」を振り返る。つぎにそれを関係者と共有するツールとしてリカバリームービー、ご本人の働きたいという思いをリカバリーにつなげるツールとして自己記入式リカバリーシート（動機付けのための目標シート、体調管理シート）をワークショップにて紹介し、職業リハビリテーションのあり方を問い直すきっかけにしたいと考える。

司会 飯野 雄治 氏（稲城市役所/IPS-Tokyo）
話題提供者 中原さとみ 氏（桜ヶ丘記念病院/IPS-Tokyo）
飯野 雄治 氏（稲城市役所/IPS-Tokyo）
渥美 正明 氏（足立リカバリーサバイバー）
岡本さやか 氏（WRAP ファシリテーター）

c 「雇用（支援）」と「就労（支援）」とで叶える精神障がいをもつ方の希望の実現」

精神障害を持つ方の雇用を実際に行っている企業の取り組みを「雇用（支援）」として位置づけ、一方で精神障がいを持つ方の就労支援を行っている支援機関（病院や学校）を「就労（支援）」として位置づけ、両者の経験（体験）やノウハウに焦点をあてて、自主ワークショップを企画したいと思います。また、ご関心のある皆さんとのディスカッションを通して、精神障害を持つ方の雇用・就業に関する豊かな可能性を共有できたら嬉しいと考えています。

司会 池田真砂子 氏（医療法人社団 根岸病院）
話題提供者 石井 雅也 氏（ハートフルエイム株式会社）
大森 理智 氏（株式会社エイト）
公立高校教員（予定）

《研究・実践発表》

4. 口頭発表

- 1 「職業リハビリテーション従事者の職務ストレスに関する研究」
石原 まほろ 埼玉障害者職業センター
八重田 淳 筑波大学大学院人間総合科学研究科
- 2 「発症3年間のリハビリテーションを経て本人の希望する再就職に至った失語症の1例」
前田 幸子 新宿区立障害者福祉センター
- 3 「高次脳機能障害者のリハビリテーションにおける家族支援の重要性」
白山 靖彦 静岡英和学院大学
- 4 「連携のツールとしてのワークサンプル法の活用可能性」
仲村 信一郎 国立職業リハビリテーションセンター
- 5 「障害者の円滑な就業の実現等にむけた長期追跡調査（パネル調査）第1回報告－障害のある労働者の職業サイクルに関するアンケート（若年者）調査結果－」
石黒 豊 障害者職業総合センター 社会的支援部門
- 6 「在宅就業支援団体の活動事例発表及び問題提起」
須藤 亮 （在宅就業支援団体） 株式会社 研 進
- 7 「高次脳機能障害を有する、教員の二症例に対する模擬的な授業の試み」
西 則彦 横浜市総合リハビリテーションセンター医療部 理学・作業療法課
- 8 「障害のある人への合理的配慮のあり方の実態調査に基づく検討」
春名 由一郎 障害者職業総合センター
- 9 「ハローワークにおける精神障害者に対する新規求職登録及び紹介就職等の実態調査について中間報告①」 相澤 欽一、村山 奈美子、川村 博子、岩永 加奈子
障害者職業総合センター 障害者支援部門
- 10 「ハローワークにおける精神障害者に対する新規求職登録及び紹介就職等の実態調査について中間報告②」 村山 奈美子、相澤 欽一、川村 博子、岩永 加奈子
障害者職業総合センター 障害者支援部門
- 11 「うつの労働者への職場の対応―同僚たちの想いと支援」
大石 甲 筑波大学大学院人間総合科学研究科
- 12 「軽度知的障害者の就労不適應に対する SST の効果」
茂木 位早代 障害者就業・生活支援センターエブリィ
- 13 「高次脳機能障害者に対する評価の変容」
稲葉 健太郎、松井 和夫、江川 真由美名古屋総合リハビリテーションセンター
阿部 順子 岐阜医療科学大学保健科学部看護学科
- 14 「精神障害者雇用ノウハウとしての IPS の可能性」
飯野 雄治 稲城市役所、IPS - Tokyo
中原 さとみ 桜ヶ丘記念病院、IPS - Tokyo
- 15 「障害者の就労意向と就労に向けた活動状況に関する研究」
東海林 崇、加藤 善崇、田中 知宏 株式会社浜銀総合研究所
- 16 「精神障害者の就労を促進する要因について」
大山 勉 東海学院大学、 中川 正俊 田園調布学園大学、
石田 賢哉 青森県立保健大学

- 17 「精神障害者の職場定着促進に関する考察 ― 離職要因の分析から ―」
 村上 裕輔 就労移行支援事業所 港風舎
 鈴木 歩 横浜市精神障害者就労支援センター
- 18 「障害者雇用に対する企業の意識と雇用拡大の可能性～企業へのアンケート調査より～」
 河村 恵子、平川 政利、岡田 伸一 障害者職業総合センター
- 19 「ブレア政権時代の障害者雇用政策の意義と課題」
 江口 俊介 大阪市立大学大学院生活科学研究科後期博士課程
- 20 「障害を開示した就労経験を持つ障害当事者へのグループインタビュー」
 大川 浩子 NPO 法人コミュニティ楽創 北海道文教大学
 本多 俊紀 NPO 法人コミュニティ楽創 札幌市こぶし館
 古川 奨 札幌心療福祉専門学校
- 21 「うつ病当事者の就労継続支援～当事者、事業所との共同作業による支援の検証」
 本多 俊紀、大川 浩子 NPO 法人コミュニティ楽創
- 22 「高次脳機能障害者の就業継続支援について～本人および事業所調査より～」
 田谷 勝夫 障害者職業総合センター
- 23 「触法障害者（知的障害のある元受刑者）の雇用について」
 萩原 義文 (有) トモニー
- 24 「障害者就労支援ネットワーク構築に向けた調査研究― 大阪府交野市における施設利用者等への就労ニーズの聴き取り調査から」
 井上 京子 社会福祉法人心生会障害者就労支援センター準備室
- 25 「本人の発言の視覚化による主体性を引き出した支援」
 松倉 義憲 足立区障がい福祉センター 雇用支援室
 武藤 真理 帝京平成大学健康メディカル学部作業療法学科
- 26 「社会的行動障害者への就労支援-感情コントロール不良がある高次脳機能障害者を中心に-」
 鈴木 真、長谷川 純子 三重県身体障害者総合福祉センター
 太田 喜久夫 松阪中央総合病院
- 27 「就労移行支援事業への業務移行における支援の実践過程～浮沈図調査票を用いた職員への面接を通して」
 森川 洋 東海学院大学健康福祉学部
 黒岩 直人 茨城障害者雇用支援センター
 黒岩 美喜 独立行政法人産業技術総合研究所
- 28 「就労支援を行う上で着目すべき夫婦の心理的状态～夫婦同伴での介入を行った事例にもとづく考察～」
 飯沼 舞、廣瀬 陽子 医療法人社団北原脳神経外科病院
- 29 「当院における就労支援活動の新たな展開～作業療法プログラムおよび神経心理学的検査を開始して～」
 廣瀬 陽子、飯沼 舞 医療法人社団北原脳神経外科病院
- 30 「福祉情報誌編集活動と障害当事者の社会参加」
 田原 美智子 日本福祉大学高浜専門学校
- 31 「視覚障害者の職場環境整備と合理的配慮―ある復職事例における取り組みを中心として―」
 指田 忠司 障害者職業総合センター
- 32 「施設から職場への移行―連携ツールとしての個別支援計画」

山田 輝之 社会福祉法人 青い鳥福祉会
八重田 淳 筑波大学大学院 人間総合科学研究科

5. ポスター発表

- 1 「就労移行支援における特別支援学校との連携困難要因に関する研究」
藤井 明日香 広島大学大学院教育学研究科博士課程後期
- 2 「生活保護施設の利用者に対する職業支援サポート」について
笠原 正之、平井 達也、田渕 勝彦 社会福祉法人 みおつくし福祉会
- 3 「大阪市職業リハビリテーションセンターにおけるプレゼンテーション能力開発訓練について」
池田 泰将、岡本 忠雄 大阪市職業リハビリテーションセンター
- 4 「特別支援学校を中心にした個別支援の質的検討ー生活面と行動面に課題を抱える事例へのアプローチから見えてきた支援の質ー」
石山 貴章 九州ルーテル学院大学
田中 誠 就実大学/就実短期大学
矢野川祥典 高知大学教育学部附属特別支援学校
- 5 「企業・教育機関が連携した作業所への支援ー小規模作業所の歩む姿ー」
田中 誠、石山 貴章、矢野川祥典
- 6 「就労している知的障がい者・発達障がい者の自立生活支援についてー就労と生活支援についての面接調査を通してー」
徳永美穂子 熊本有明障害者就業・生活支援センターきずな
石山 貴章 九州ルーテル学院大学
- 7 「大学と地域の連携による就労支援の実践～学生ジョブサポーターの協力を中心として～」
飯田朋子、渋谷 旭、山田 翔子 目白大学大学院 生涯福祉研究科
高野 聡子 目白大学 人間学部 専任講師
松矢 勝宏 目白大学 人間学部 教授
- 8 「岐阜県T市における農業分野の障害者就労受入れの概況ー農業分野での障害者就労促進に向けた試み その1ー」
山下 仁、片山千栄、安中誠司 農研機構農村工学研究所
片倉 和人 農と人とくらし研究センター
- 9 「ワークショップによる農業関係者と障害者福祉関係者の交流ー農業分野での障害者就労促進に向けた試み その2ー」
片山千栄、山下 仁、安中誠司、片倉 和人
- 10 「短期間の訓練による就労移行 ～訓練期間の見直しにより支援はどう変わったか～」
田中 久美子 横浜市総合保健医療センター
- 11 「企業支援における支援内容の分析～雇い・働き続けるには何が求められ、支援機関に何ができるのか～」
千田 若菜 医療法人社団ながやまメンタルクリニック
- 12 「札幌市における就業・生活支援の課題～就業・生活応援プラザとねっとの実践を中心に～」
大野由美子、須藤栄治、吉田幸江、重泉敏聖
NPO 法人きなはれ 就業・生活応援プラザ とねっと
- 13 「知的障害者の一般就労に影響を与える作業能力因子の検討」
武藤 真理 帝京平成大学健康メディカル学部作業療法学科

《大会参加申込みのご案内》

1. 参加申し込み方法

同封の「大会参加登録申込書」に必要事項を記入の上、FAXまたは郵送して下さい。

2. 参加費

大会参加に伴う諸費用の詳細は以下のようになります。大会参加費の事前申し込み締め切りは、7月31日（金）です。

大会参加費 (予稿集付き)	正会員 事前	4,000 円	事前参加申し込みは7月 31 日(月)が締め切りです。それ以降は当日の金額となります。
	当日	5,000 円	
	非会員 事前	5,000 円	
	当日	6,000 円	
	学生 事前	2,500 円	
	当日	2,500 円	
懇親会費		4,000 円	
弁当代 (お茶つき)		800 円	初日分と2日分があります。
研修基礎講座		1,500 円	

当日受付も承りますが、できるだけ事前に申し込み手続きをお済ませください。大会参加費をはじめ、諸費用はすべて振り込みで納入してください。納入方法については参加申し込み受付後に連絡いたします。なお、いったん納入された費用はお返しできません。

3. 懇親会

8月20日（木）18：00 から会場のキャンパス内ポートピアホテル直営学食で懇親会を開催いたします。多くの方々の参加をお待ちしています。

4. 昼食

会場周辺には飲食店がありません。また、学生食堂も閉店しておりますので、両日ともお弁当（お茶つき）を用意いたします。1食800円です。ご希望の方は参加申込書にその旨ご記入ください。その他、福祉施設製造パンの販売をご用意いたします。

《諸手続きの締め切り期日および連絡予定》

諸手続きの締切期日および連絡予定

2009年7月22日（火）	研究発表原稿、自主ワークショップ資料の送付期限（必着）
2009年7月31日（金）	事前参加申し込み期限

《障害のある参加者への支援》

障害のある参加者の方には可能な限りのサポートを行います。参加を計画された時点で大会実行委員会事務局までご相談ください。

《宿泊の斡旋》

今大会の事務手続きは代行業者をしませんので、恐れ入りますが宿泊先の予約については、インターネット等を活用していただいて、各自で行ってください。
会場のポートアイランド島内には、3つ程度のホテルしかありませんし、飲食店等の店舗も少ないですので、三宮でお探しになることをお勧めします。(三宮からは神戸新交通ポートライナーで会場最寄り駅市民病院前駅に9分間で到着します)

《大会会場案内図》

- 神戸学院大学ポートアイランドキャンパスB号館
神戸市中央区港島1-1-3



・公共交通機関

JR三宮駅および神戸空港より神戸新交通ポートライナー「市民病院前」駅下車西へ徒歩約6分（新神戸駅からは市営地下鉄で三宮へお越し下さい。市民病院前駅までは新神戸からは約11分、三ノ宮から約9分

・駐車場

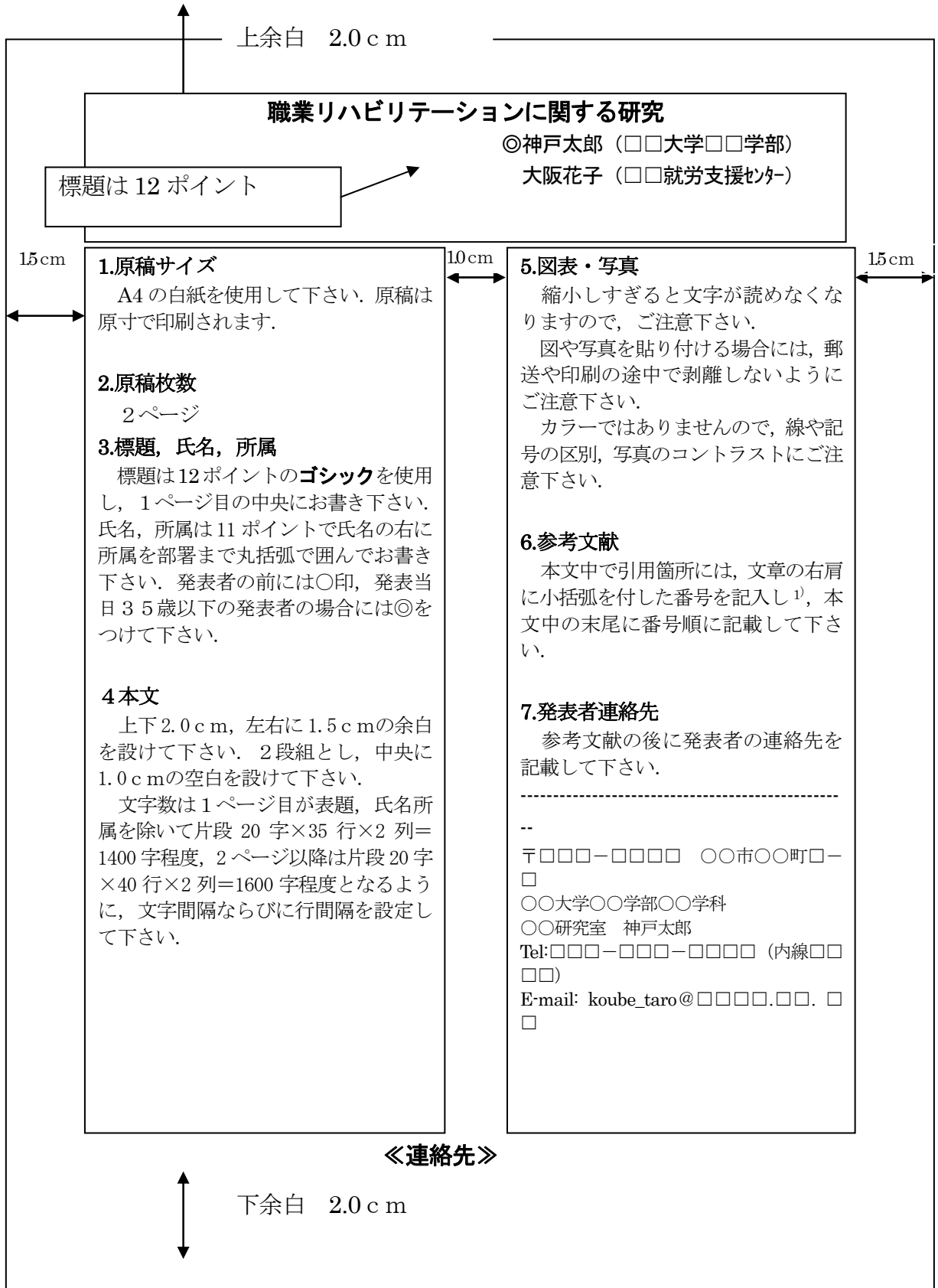
会場駐車場は基本的にはありませんので、公共交通機関をご利用下さい。公共交通機関を利用しづらい方は大会事務局にご相談下さい。

《その他》

これが、郵送での最後のご案内になります。内容等の変更、追加が生じましたら学会ホームページ内の大会ホームページにUPしますので、ご確認下さい。

日本職業リハビリテーション学会第37回（近畿）大会

原稿の書き方（案）



以上、お問合せ、ご連絡等は以下にお願いします。

大会実行委員会事務局

〒651-2181 神戸市西区曙町 1070 兵庫県立総合リハビリテーションセンター
能力開発施設内

「日本職業リハビリテーション学会第37回大会実行委員会事務局」

電 話：078-927-2727 (内線 3500 古川)

F A X：078-925-9223

メール：noukai@nifty.com